

星峠の棚田

星峠の棚田は写真家のお気に入りのスポットだ！初夏には、200枚あまりの田んぼに水が張られ、できた水たまりに空が映し出される。秋には、青々とした稲の茎が、バター色の黄色い稲穂の重みに耐えながらたわみ、揺れる。冬でも、初雪が田んぼに白い冠を並べる風景は印象的だ。

十日町市民が何百年も前から楽しんできた風景だ。この山間部では、平地を増やすために斜面を切り開いて水田が作られた。雪が灌漑用水を供給し、斜面の頂上に特別に掘られた貯水池から流れ落ちる。尾根の頂上に沿ったブナ林も水の供給に役立っている。雪解け水や雨水を分厚い根と落ち葉のローム層で保水し、流れ出す水を貯水池に引き入れているのだ。

棚田は、人間が雪国の厳しい環境にいかに適応してきたかを示す一例である。住民たちは、私たちがこの素晴らしい景観を末永く楽しむことができるよう、棚田の保全に努めている！

美人林

ブナの木がブラシの毛のようにまっすぐ並んでいるのが見えるだろうか？美しい光景だが、ブナについて知っている人なら奇妙に思うかもしれない。

通常、ブナは孤高の巨木で、大きな樹冠を持ち、自分の種さえも近くで芽吹くことを阻む。幹や枝は広がり、ねじれながら、できるだけ多くの日光を浴びようと競い合っている。では、なぜこれほど多くのブナが、まっすぐスリムに、平行に上に向かって生えているのだろうか？

かつてこのあたりは、大小さまざまな樹齡のブナが生い茂る自然林だった。1910年代、土地の所有者が東京に引っ越すことにあたってお金が必要だった。彼は成木をすべて伐採し、炭にして売ることにした。翌年の春、残された小さな苗木は、日光を浴びる競争相手もなく、空に向かってまっすぐに伸びた。その珍しい光景に魅了された地域の人々は、この木立を名勝として保存することを決め、「美人林」と名付けた。

この木立は、十日町の魅力的な生態系について学ぶことができる科学館「森の学校キョロロ」から歩いてすぐのところにある。

考古学的発掘

足元の地中にはどんな秘密が隠されているだろうと思ったことはある？考古学的な発掘調査によると、信濃川流域（現在の十日町市を含む）では、約1万年以上前から人々が生活していたのだ。それは、この地域で発掘調査が行われ、土器の破片など、はるか昔に人が住んでいた痕跡が発掘されたからである。

土器の破片は、年代測定だけでなく、謎に包まれた古代の住民の生活についての手がかりを与えてくれるため、特に重要である。骨のような有機遺物は日本の酸性土壌ですでに溶けてしまっているが、炭化した古代の食事の残骸は土器に付着しており、古代の居住者の食生活を物語っている。土器の形もまた、何かを物語っている。初期の土器はシンプルで機能的な形をしているが、新潟独特の「火焰型土器」のような中期の土器は非常に装飾的で、宗教的または儀式的な用途を示唆している。

十日町市博物館には、国宝を含む 1000 点以上の出土品が所蔵されており、雪国における初期の入植者についてわかっていることすべては二ヶ国語で幅広く展示されている。

織物文化

十日町は冬の豪雪地帯として有名である。除雪車や電気暖房のような近代的な便利さが出現する以前は、冬の大部分はいろいろのそばに屋内で過ごすことが多かった。しかし、それは無為な時間を意味するものではなかった。少なくとも 5,000 年以上前から、地元住民は信濃川流域の山野に豊富に生育する植物、苧麻（ちよま）で布を織ってきた。農作業が休みになる冬の間、人々は糸を紡ぎ、布を織った。

十日町の織物職人たちは、長い年月をかけてさまざまな種類の布を作り出し、絹染めもそのレパートリーに加えてきた。しかし、この地方で最もよく知られているのは十日町明石ちぢみなどの絹織物だろう。軽い縮緬織物で、18 世紀には夏の武士の衣服として需要があった。十日町では今でも伝統的な手法で手染め・手織りで作られているが、最近では着物以外にも幅広く使われている。絹織物のバッグやネクタイ、テーブルランナーなど、お気に入りの一品が見つかるかもしれない。

着物作り

十日町には、絹織物や植物繊維の織物など、古くから多様な織物文化がある。当然のことながら、十日町は着物生産の中心地でもある。日本の象徴的な衣服である着物をご存知の方は多いと思うが、実際にどのように作られるのかご存知だろうか？

植物繊維の生地は、一般的に織る前に糸を染め、織りの中で異なる色を組み合わせる模様を作る。一方、絹織物は織ってから染めるのが一般的で、デザインはより複雑になる。十日町の場合、主な方法は友禅と呼ばれる防染技法である。

着物は通常、長さ 13～16 メートルほどの一反から無駄なく作られる。職人は、袖や胴の部分になる布を把握し、仕上がりを見据えて一反を染めていく。縫い目から柄が途切れることなく見えるようにピースを揃えるには熟練の技が必要だ。

デザインの構想から完成まで、華やかな着物なら1年以上かかることもある。十日町では今でも多くの工程を手作業で行っているため、シンプルなものでも数ヶ月かかるのが一般的だ。しかし、そのすべての時間とノウハウの結晶が、このようなエレガントな衣服なのだ。